修士論文要旨

授業中の相互的意思決定過程における教師による センスメーキングの機能に関する研究

A study on the function of teacher’s sensemaking in decision making during lesson

前田　菜摘（Natsumi Maeda）　　指導：浅田　　匡

１．問題と目的

教師の授業中の思考過程は，これまで主として教師の意思決定モデルとして捉えられてきており，初任者と熟練教師の比較研究やカテゴリーシステムの開発といった研究が数多く行われてきた．しかしながら，それは情報処理モデルに基づくアプローチであり，実践力を高めるための教師教育では教授可能ではなかったことが示されている．

そこで本研究では，Weick（1995）のセンスメーキングの枠組を用い，下記の２つの目的のもとに，授業中の教師の思考過程とそれに基づく授業行動について考察し，教師の思考プロセスの新たなモデルを提案する．

⑴視聴した他者の授業の教師の気づきや解釈の特徴についての質問紙調査から，教職経験年数や教職アイデンティティ特性との関連を探る

⑵授業実践者へのインタビューにより，センスメーキングと捉えられる具体的な事例を抽出し，その思考過程を記述する

２．方法

２－１．研究Ⅰ

Ｓ県およびW県に勤務する小学校教師26名の教師を対象に，同一の授業場面についての各教師の気づきと解釈の傾向を探るため，ビデオ視聴式の質問紙を実施した．

２－２．研究Ⅱ

実際の授業実践について，より詳細に思考過程を記述するため，Ｓ県に勤務する２名の小学校教師に授業のビデオ収録及びインタビューを行った．

３．結果と考察

３－１．研究Ⅰ

質問紙への記述からカテゴリーを生成し，その傾向を考察した。その結果，教師の気づきには教職経験よりもむしろアイデンティティ特性が強く反映されており，かつ，気づきの内容が場面の解釈や展開の予想と関係していることが分かった．特にアイデンティティ特性である【信念の安定】得点の低い群，及び【思考様式】得点の高い群で，記述された気づきが多く，予想が記述できているという点は，絶えず自らの教育信念に対して懐疑的である姿勢や，失敗や問題を自らの指導に起因するものとして捉える態度が，思考過程に強く影響したのではないかと考えられる．

３－２．研究Ⅱ

実際の授業場面から抽出された４授業場面についてのインタビュー内容をもとに分析を行った結果，教師は即興的に授業ストーリーを生成していると考えられ，その思考過程は，「教師が設計段階で生成したストーリーを展開するのに合った状況を作り出すため」と「児童との相互作用によって即興的にストーリーを生成するため」の２つの機能に大別して記述できた．これは，教師が，意思決定モデルで扱われたような同定された問題を解決するためだけに行為を決定しているわけではないことを説明する．

４．まとめと今後の展望

研究Ⅰ，Ⅱの結果から，センスメーキングプロセスに焦点を当てた教師の思考過程のモデルを作成した(図１)．このモデルは，教師の即興的な思考を捉えるための新たな枠組みを提供する．

今後は，教師がどのような気づきの枠組みをもっており，それがいかにして形作られるのかについて考察を深めた上で，教師教育での実用性の研究を進めていく必要がある．

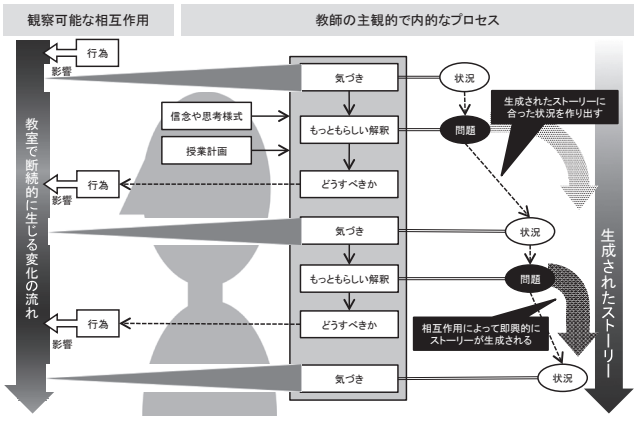

図１　教師の思考プロセスの仮説モデル

参考文献

Weick, K. E.（1995）.” Sensemaking in organizations”, Sage Publications, 遠田雄志･西本直人（訳）（2001）『センスメーキング イン オーガニゼーションズ』，文眞堂.